

1. 略歴

1972年3月	千葉県立千葉高校卒業
1977年3月	東京大学文学部第1類（美学芸術学専修課程）卒業
1980年3月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程（美学芸術学）修了
1983年7月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程（美学芸術学）単位取得退学
1983年7月	東京大学文学部助手（美学芸術学）
1986年4月	玉川大学文学部専任講師（芸術学科）
1991年4月	玉川大学文学部助教授
1992年4月	大阪大学文学部助教授（音楽学）
1996年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授（美学芸術学）
2001年7月	博士（文学）学位取得（東京大学）
2002年1月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

聴覚文化論、音楽社会史

b 研究課題

1. 音の文化の伝承、受容、流用にかかわるプロセスとメカニズムの歴史研究による解明。これまで、音楽を「文化」として捉えるという観点から、西洋芸術音楽の「近代化」とテクノロジー、西洋芸術音楽における演奏伝統の形成とその伝承メカニズム、日本近代の音楽文化におけるメディアや言説といったテーマでの研究を進めてきたが、最近では「音楽」という枠をこえて、「音楽」以外の音も含めた様々な音が形作る「音の文化」の研究を軸に、「感性文化」という観点から、人々の形作ってきた歴史を描き直す試みを行っている。
2. 「聴覚文化」という観点からの日本戦後史の再検討。上記の問題意識をふまえた一種の応用問題として、現在は「1968年」を中心とした日本戦後史を「感性文化」の変化の歴史として捉え直す研究に取り組んでいる。「1968年」は近年、戦後史の転換点となった年として注目されているが、この前後の時期は、政治的な意味での転換点にとどまらず、人々の感性のあり方や志向が大きく変化した時期でもあったのではないだろうか。そのような問題意識をふまえつつ、同時代のドキュメンタリー音源、ドキュメンタリー映像やそれに関わる様々な言説などを主要な題材として、その変化についての分析を進めている。
3. 場所の表象、記憶の生成・変容のメカニズムやそれに関わる多様な文化的コンテクストの相互作用の解明および芸術作品や感性的体験がその過程で果たす役割の考察。作品体験と現実の都市の表象とを媒介する場としての文学散歩、映画のロケ地巡りといった営みの考察、廃墟趣味や路上観察の見直し等の試みを起点に、主に写真や映像による表象の分析を通して、様々な立場や観点がぶつかり合い、また離合集散しつつ変容してゆく場としての文化のありようを捉えることを目指している。

c 概要と自己評価

2013年には、それまでのほぼ10年間にわたる研究の集大成として著書『サウンドとメディアの文化資源学』をまとめることができたが、この2年間は、そこでの基本的な考え方をふまえつつ、「研究課題」の項に2として記載している日本戦後史の再検討というテーマに関する研究を中心に推し進めた。幸いなことに、このテーマの研究プロジェクトが、筆者を研究代表者とする佐藤守弘（京都精華大学）、輪島裕介（大阪大学）、高野公平（茨城大学）各氏との共同研究として、科学研究費基盤研究（B）に採択され（「聴覚文化・視覚文化の歴史からみた『1968年』：日本戦後史再考」、課題番号25284036）、2013年から2016年までの4年間にわたってその助成を受けることができたこともあって、このテーマの研究は順調に進捗している。これまでにまとまった分に関しては、2016年度中か、遅くも2017年度のうちに単行本の形で刊行できる見通しである。

d 主要業績

(1) 論文

「音楽はどのように言葉や図像とかわるのか：ベートーヴェン《月光》をめぐるマルチメディア的想像力」、唐沢かおり・林徹編『人文知1 心と言葉の迷宮』（東京大学出版会）、2014.7、pp.187-208.

「映画《東京オリンピック》は何を記録したか：『テレビ的感性』前夜の記録映画」、『美学芸術学研究』第33号
(東京大学大学院人文社会系研究科美学芸術学研究室)、印刷中

(2) その他の寄稿

「『芸術作品』をめぐる虚実皮膜の間：『佐村河内事件』の一側面」、『アステイオン』第80号、2014.5、pp.242-245.

「『アームチェア・フィールドワーカー』の時代(書物逍遙)」、『ミネルヴァ通信「究」』第41号、2014.8

「宝塚歌劇100年(ニュースの本棚)」、『朝日新聞』、2014年8月31日

「『少女車掌』の『説明』する風景」、『アステイオン』第81号、2014.11、pp.196-199.

「聴覚性の過去と現在」(共同討議、渡辺裕+吉田寛+金子智太郎+長門洋平+福田貴成)、『表象』09(表象文化論学会)、2015.3、pp.17-59.

「社会教育施設としての名曲喫茶」、『アステイオン』第82号、2015.5、pp.206-209.

「映画《東京オリンピック》は何を記録したか」、『アステイオン』第83号、2015.11、pp.244-247.

「どこまでが『音楽』?：『発車メロディ』の現在が問いかけるもの」、『日本近代音楽館館報』第4号、
2015.12、pp.4-5.

(3) 学会発表・講演等

「『芸術作品』をめぐる虚実皮膜の間：人々は『佐村河内守』に騙されたのか?」、第65回美学学会全国大会、(ワークショップ「『カタ』るヘルメス：藝術をめぐる虚実の物語」)、九州大学、2014年10月12日

「『文化資源』という概念は何をもたらしたのか?」、日本音楽学会全国大会(シンポジウム「音楽と文化資源としての音環境」)、青山学院大学、2015年11月14日

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

お茶の水女子大学生活科学部、2015年4月～2016年3月

九州大学文学部、2015年4月～2016年3月

(2) 学会

日本音楽学会、会長、2014年4月～

美学学会、委員、2014年4月～

文化資源学会、会員、2014年4月～

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

サントリー文化財団、サントリー学芸賞選考委員、2014年4月～

第20回国際音楽学会東京大会(IMS2017)組織委員会、委員長、2014年4月～

明治学院大学図書館付属遠山一行記念日本近代音楽館、収書委員、2014年4月～